

## 映画『うまれる』観賞後のメッセージ

映画『うまれる』を上映して下さった先生へ

映画上映終了後、もしお時間ありましたら、  
以下の私からのメッセージをお読みいただければ幸いです。

全部読むと8分くらいになるかと思いますが、  
お時間もあるかと思しますので、ご自由に省いてくださいませ。

ありがとうございます。

2012年3月

監督・父 豪田トモ

### ■ ご挨拶

皆さま、こんにちは!

映画『うまれる』を監督させていただきました、豪田トモと申します。

本日は、皆さまに馴染みの薄い、出産・育児をテーマにしたドキュメンタリー  
映画をご覧いただき、本当にありがとうございました。

映画はいかがでしたでしょうか?

皆さまの未来に少しでも良い影響を残すことができれば、とても嬉しく思います。

### ■ 映画『うまれる』が「うまれた」親子関係

この映画を作ろうと思った時、僕は妊娠・出産に一切、関心のない独身男性で

## 映画『うまれる』観賞後のメッセージ

した。

そんな僕がなぜ、この映画を作ろうとしたのかと言いますと、  
「子どもが親を選ぶ」という考えに出逢い、命、そして家族の原点である『うまれる』ということを見つめ直すことで、長年、仲の良くなかったお父さん、お母さんと仲直りできるかもしれない、と思ったからです。

僕は小さい頃から、「ああしろ、こうしろ」、「あれをやっちゃダメ」、「これをやりなさい」とうるさく、何をしても誉めてくれない、認めてくれない両親に対して、ずっと不信感と嫌悪感を持って育ってきました。

身体が弱い状態で生まれ、いつも手術と入院、退院を繰り返していた弟の面倒ばかり見ていて、自分の事をちゃんと見てくれない親に不満を持っていました。

親との関係が良くないと、自分の置かれた環境に対する不満が湧きやすくなります。

ちょうど、皆さんくらいの年の頃、僕は親だけでなく、先生に反抗し、授業をさぼり、クラスメートを傷つけた、「不良品」でした。

この国も、社会も、嫌いでした。

そんな僕にとって、結婚するとか、家族を持つとか、父親になるとか、そういった事は人生設計には入っていませんでした。

そんな僕が、家族とは、父親とは、そして自分のパートナーである女性にとっての「産む」「産まない」とはどういう事なのだろう、と探求して出来上がったのが『うまれる』という映画です。

### ■ 映画作りを通した親子の和解

## 映画『うまれる』観賞後のメッセージ

この映画は、2年間かけて、魂を込めて作り上げました。  
主にインターネットで出演者を募集し、約100組に取材・撮影をさせていただきました。

感謝と感動と祝福に満ちあふれた幸せな出産を何度も撮影させていただき、不安と期待が入り交じる中、手探りながらも前向きに子どもを育てていらっしゃる数多くのご家族とお会いする中で、

「きっと、両親もこんな風に僕を大事に育ててくれたんだ。お父さんもお母さんも若かったし、完璧な人間じゃない。仕事や弟の世話が大変で、自分の面倒を見切れなかったのは仕方がないかもしれない。でも、出来る限りの事はしようとしてくれたんだろうな」

と思うに至り、恥ずかしながら38歳にして、ようやく両親に対する無償の感謝の念を感じる事が出来るようになりました。

映画の中で「愛情は態度と行動で示さないと伝わらない」と伴まどかさんが言っていたのですが、撮影の終盤、自分の誕生日に、両親に「うんでくれてありがとう」という言葉を伝え、長年のわだかまりを解消する事が出来ました。

その後、両親との関係はとても良くなり、今では、たまに電話をしたり、一緒に食事にでかけたりしています。

30年以上かかりましたが、本当の意味で、家族になったのかなあ、と思えるようになりました。

親子はいつまでたっても親子。

そして、家族は、いつでもやり直すことができる、と今は思います。

### ■ 父親に

## 映画『うまれる』観賞後のメッセージ

その直後に、お付き合いをしながら、一緒に映画を作ってきたプロデューサーのお腹に、新しい命が宿りました。

この映画の公開は2010年11月6日でしたが、娘が産まれたのは、その2週間後。2つの大切な命を同時にこの世に送り出す事が出来ました。

昔は父親になる事が怖かったけれど、映画を作る過程でたくさんの方からたくさんのお話を学ばせていただいたおかげで、今は子育てを120%楽しんでます。

パパになるって、こんなに幸せで、楽しく、やりがいがあるなんて、誰も教えてくれませんでしたし、今まで知りませんでした。

命のリレーがつながっています。

### ■ 登場人物のその後、松本虎ちゃんファミリー

この映画はドキュメンタリーですので、登場いただいた方は現実に存在し、映画の後もそれぞれの人生を歩んでいらっしゃいます。

簡単ではありますが、各登場人物のその後、について報告させていただきます。

18トリソミーという障害を持って産まれた、松本虎ちゃんは、現在、3歳2ヶ月になっています(虎ちゃんの誕生日は2008年12月25日ですので、お話する時にカウントしていただければと思います)。

歯が上下にびっしりと生え、

## 映画『うまれる』観賞後のメッセージ

口からものを食べることが出来るようになりました。  
納豆と味噌汁が好物です。

口から栄養補給が出来るようになったので、  
トレードマークであった鼻のチューブは、いまはもう付けていません。

### ■ 伴さんファミリー

映画の中で誕生した、伴まなかちゃんは、現在、2歳2ヶ月(まなかちゃんの誕生日は2009年12月20日ですので、お話する時にカウントしていただければと思います)の可愛い女の子になっています。  
パパそっくりです。

もう走り回り、少しずつお話も出来るようになりました。

虐待を受けていた自分が良い母親になれるのだろうか、と悩まれていた、まどかさんですが、今は本当に娘さんを可愛がられていて、旦那さんと一緒に幸せな生活をされています。

夫の真和さんは「出産に立ち会って営業成績が良くなるのか」と言う会社に勤めていましたが、あその後、会社を辞め、仕事と家族のバランスのとれる会社に転職したそうです。

そして、2011年11月20日、お2人の間に第2子が誕生されました。  
今回も女の子でしたが、今回もパパそっくりです。

### ■ 関根さんファミリー

出産予定日にお子さんを亡くされた関根さん夫婦ですが、  
「天国郵便局からの頼り」というお手紙を書いてくださった鮫島浩二先生の病

## 映画『うまれる』観賞後のメッセージ

院で、「2人目の」お子さんを無事、ご出産されました。

名前は菫(あやめ)ちゃんと言い、現在は1歳8ヶ月の可愛い女の子になっています(菫ちゃんの誕生日は2010年6月1日ですので、お話する時にカウントしていただければと思います)。

元は高校の保健の先生でもあった、お母さんの麻紀さんからメッセージをいただきました。

「3年前、椿を亡くした直後の深い悲しみは少しずつ形を変え、今では、椿はいつも優しく私たち家族を包んでくれている光のような存在になっています。

そう思えるようになったのも、映画に出演したことで気持ちの整理ができ、前に進めるきっかけになったのではないかと思います。

天国の椿も、「うまれる」に出演できたことを喜んでいると思います」

週末にはよくお寺に行って、家族4人の時間を過ごされるそうです。

### ■ 東さんファミリー

子どもを授からない人生を受け入れた、東陽子さんですが、現在も鳥取県の病院で働いており、赤ちゃんを待たれている方々のサポートをされています。

### ■ 命が奇跡的なのは、役割があるから

今回の映画を通して、僕が皆さんにお伝えしたかった事の一つは、

## 映画『うまれる』観賞後のメッセージ

産まれること、生きること、育てられること、生きてくれていることは、決して当たり前なんかではなく、奇跡の連続の上に成り立っている、という事です。

では、なぜ、皆さんは奇跡的に生まれ、そして、奇跡的に生きているのでしょうか？

それは、産まれて来た意味・生きている理由・役割があるからだと思うのです。

社会のため、家族のため、お友達のため、誰かを幸せにできる役割が、皆さんにはあります。

僕にも使命がある。  
虎ちゃんにも産まれて来た理由がある。  
皆さんにも果たすべき役割があります。

### ■ 人それぞれ役割が異なる

政治家になれとか、社長になれという事ではありません。

毎日をまじめに生きる事、人を幸せにする仕事をする事、子供を愛し育てる事も、とっても大切な役割です。

人それぞれ、違う人間であるように、  
人それぞれ、役割は異なります。

### ■ 役割が見つかるのは人それぞれのタイミングがある

人によっては10代で自分のミッションが見つかる人がいるかもしれないし、40代になってから見つかる人がいるかもしれません。もしかしたら70歳になって

## 映画『うまれる』観賞後のメッセージ

から見つかるかもしれません。

「ゲゲゲの鬼太郎」の作者である水木しげるさんが人気作家になったのは40歳を過ぎてからですし、「アンパンマン」がヒットした時、作者のやなせたかしさんは60歳近くになっていました。

### ■ 人生は3万日

80歳まで生きられたとして、  
人生って何日間、あると思いますか？

答えは、約30,000日です。

たくさんある、と感じるか、少ないと感じるかは、人それぞれだと思いますが、僕は、たった30,000日しかないのであれば、がんばろうって思っています。

皆さんは奇跡的な存在。

だからこそ、生きている意味があり、役割があると考えたいと思います。

役割を果たすためには、良い人材になる必要があります。

だから、勉強も、運動も、遊びも、がんばってください。  
常にベストを尽くして、後悔のない青春を過ごしてください。

### ■ 未来人育てプロジェクト

今回の映画上映は、

## 映画『うまれる』観賞後のメッセージ

「成人になる前に映画を観ることで、より明るい未来を作り上げて欲しい」

と願う、たくさんの大人たちからの寄付によって、実現しました。

日本の未来を担う皆さんたちを支えたいと思っている大人がたくさんいるという事を、忘れないでいただけると嬉しく思います。

### ■ 最期に

最後に皆さんに一言

うまれてくれて、ありがとう！  
生きていてくれて、ありがとう！

皆さんには明るく楽しく幸せな未来が待っています。

お話を聞いてくださって、ありがとうございました！  
いつかどこかで、お会いしましょう！

映画『うまれる』  
監督・父  
豪田トモ